

本人が物語風に綴る闘病記

44歳で甲状腺がんと中咽頭がんが見つかりましたが、
中2の娘が「大したことないやん」と言うので。

著：原 利彦（1972年 生まれ）



甲状腺がん 手術編 018：「大したことないやん」

2017年3月31日（金）

手術から2日後、夕方にトモとウタが見舞いに来ました。トキは相変わらず管だらけの状態でしたが、少しでも病人っぽさを拭うために、病室から、デイルーム（広い談話室）に移動して、出来るだけ元気に明るく振舞いました。

ウタは、トキの病気のこと、手術のこと、入院のこと、何も知りません。

ですが、トキはトモから「お父さんは、のどにできた、できものを取る手術をした」

と、ウタに軽く話したということは聞いていました。トキとトモは、ウタの反応に少し、ソワソワとしていました。一方、ウタは、ここに来る前に親知らずを抜いたらしく、右の頬が、ぷつくらと腫れていました。言葉も発せず、無表情でした。そんなウタの様子に、トキは思いました。

『突然に、こんなお父さんを見て、言葉もないだろう』。ところが・・・

「思ったより傷がひどくない、大したことないやん」

突然のウタの言葉にトキとトモは驚きました。ウタの話によると、小学校時代からの男の子の友達に大手術をした子がいるらしく、プールの時に、その子の胸にある大きな大きな手術痕を見ていたのだと言います。どうやら、そのイメージがあつたらしいのです。

ある意味、既に免疫力があつたのです。

さらに、トモとウタの会話が続きました。

「がんセンターやけどね、色んな病気の人が入院しとうとよ」

「まぎらわしいね！」

トモが、さり気無く、病名は伝えていないことをトキに伝えました。ウタも気にしていないようですが、

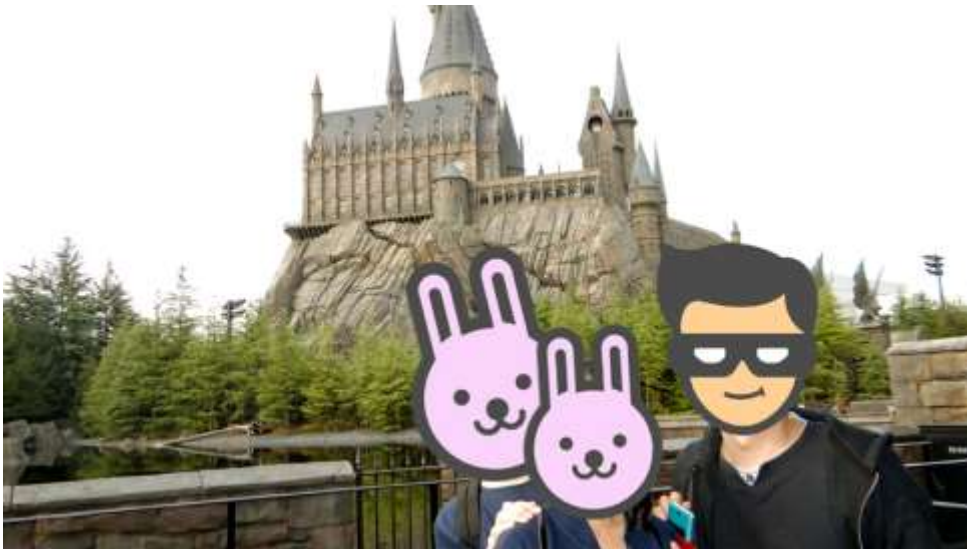
中学2年生で『癌』と言う病気に対して、どんな知識とイメージを持っているのでしょうか？

いずれは、お父さんが『癌』と言う病気を患い、治療をしていることを知るでしょうが、それは今じゃなくていいのです。その後もウタはトキに色んな話をしてくれました。ウタは多少の思春期を感じさせるも、父親のトキと会話をしっかりとしてくれます。小柄なこともあり、まだまだ幼くも見えますが、本当は、どんな胸の内なののでしょうか？いずれにしても、

ウタは手術をした後のお父さんでも、手術をする前のお父さんと全く変わらぬ態度で接してくれました。まるで、何事もなかったかのように。まるで、家のソファに座っているかのように。

トキは、そんなウタの様子に励まされて、心の中で強く叫びました。

『最強最高の娘に恵まれたのだ、グズグズするな！ウタのために普通に生きねば！』



中2のウタが大好きなハリー・ポッター。楽しかったUSJに、トキは、もう一度、一緒に行かねば、絶対に行かねばならないのです。

⇒ **019 : フランケンみたいやん！**